

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		平成30年度 豊島区新型インフルエンザ等対策推進協議会 (医療部会)
事務局(担当課)		地域保健課
開催日時		平成31年1月29日(火) 午後7時30分～午後8時30分
開催場所		池袋保健所3F講堂
議 題		1. 委員紹介 (1) 会長のあいさつ (2) 委員自己紹介 2. 議事 (1) 新型インフルエンザ等対策訓練(陰圧テント立ち上げ訓練)実施報告 (2) 新型インフルエンザ等対策行動計画の確認 (3) 東京都感染症地域医療体制ブロック協議会報告 (4) 最近のインフルエンザ発生の動向について (5) 医療資器材の備蓄状況 (6) その他
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由

出席者	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都保健医療公社 豊島病院 副院長 忠願寺 義通 ・山口病院 院長 田口 享子 ・東京都立大塚病院 感染管理看護師長 佐藤 香理奈 ・豊島区医師会 理事 西野 多聞 ・豊島区医師会 理事 北堀 和男 ・豊島区医師会 公衆衛生部委員 湊 通嘉 ・豊島区薬剤師会 理事 内山 賢一 ・池袋保健所長 佐藤 壽志子
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・健康担当部長 樫原 猛 ・危機管理担当課長 長澤 義彦 ・健康推進課長 関 なおみ ・長崎健康相談所長 荒井 和子 ・地域保健課担当係長（管理G）【他1名】 ・健康推進課担当係長（管理・事業G） ・健康推進課担当係長（感染症G）【他1名】

審 議 経 過

1. 委員紹介

(1) 会長のあいさつ

(2) 委員自己紹介

2. 議事

(1) 新型インフルエンザ等対策訓練（陰圧テント立ち上げ訓練）実施報告

資料：陰圧テント立ち上げ訓練実施報告

区 （事務局より資料について説明）

(2) 新型インフルエンザ等対策行動計画の確認

資料：新型インフルエンザ等対策行動計画の確認、新型インフルエンザ等情報シート、インフルエンザに関するサーベイランス

区 （事務局より資料について説明）

委員 フェーズごとにどのような課題があるか整理したいと思い、意見を出した。パンデミックが起こらないようにすることは不可能で、どれだけ感染者を減らせるか、流行を遅らせられるかが重要。しかしながら、毎年流行している季節性インフルエンザ、仮に今シーズンこれが新型インフルエンザだったらどうなっていたらどうかと考えると、かなり厳しいと思う。

ワクチンが効くのかどうか、有効な薬剤が供給されるのか、病院・診療所と薬局との連携はどのようにするのか、医療スタッフへの感染を防ぎながら診療を継続するにはどうすればよいか、情報連携はどのようにすればよいか。具体的な情報がまだ不足している。

区 ご指摘のとおりである。ひとつひとつ詰めていかなければならない。

委員 医療機関としては、BCPを詰め、事業を継続したいが、各論はまだこれからだ。

委員 地域の役に立ちたいと考えているが、情報が十分でなく、まだイメージが漠然としている。

委員 当院は協力医療機関なので、陽性者が出れば豊島病院へ搬送する。

委員 薬剤が効くかどうか分からない。効かないのであれば、患者は移動しても症状が改

善されず、医療機関で感染が広がるリスクが大きくなることが懸念される。

委員 各フェーズで、国の情報は都から区を経由して医療機関に伝達されることになるが、どのくらいの時間で医療機関まで到達するのか。

区 区も国と同時にリアルタイムでWHOのホームページを解読しながら、国から区に情報が届いたらすみやかに医療機関に伝えるが、報道が先行することも想定される。

委員 医療機関に情報が届いていない段階で報道が先行すると、住民にも混乱が生じる。

委員 薬局のあり方は資料2の考えでよいと思う。調剤の待合スペースで新型インフルエンザの患者とそれ以外の患者が空間を共有することを避けるために、新型インフルエンザの患者所在地に薬局が薬剤を届けることも対策のひとつだと思うが、そういった話し合いを行ったり、物事を決定したり、決定の結果を伝えるタイミングやルートをどう構築するのか。フェーズは誰が決めるのか。また、薬剤に欠品が生じる事態も想定されるが、備蓄は誰が行なうのか。未発生期に話し合っておく必要があるだろう。

区 備蓄は国が行なうことになっている。

区 国が定める医療体制ガイドラインには、発生期には通常と異なる方法で患者に薬剤を提供してもよいと記載されている。発生期に入ってさまざまな対応に追われる中で薬局と近隣の医療機関とで協議するのは難しいだろう。未発生期にこの医療部会で検討しておいて、まずは豊島区医師会と豊島区薬剤師会の加入者の間で実行して、そのあとで非加入の診療所、薬局に広めてはどうか。来年度以降の課題としたい。フェーズは地域ごとに国が設定し、切替えを行なう。

区 当初、国の特定接種システムは整備が遅れていたが、現在は整備が進んでおり、薬局が診療所を登録しているはずである。

区 豊島区では約30か所の薬局が登録している。厚生労働省のホームページで公開されている。2019年度にまた登録する機会が設けられると聞いている。

(3) 東京都感染症地域医療体制ブロック協議会報告

資料：平成30年度第1回東京都感染症地域医療体制ブロック協議会（区西部・区西北部ブロック）資料〔※非公開〕

区 （事務局より資料について説明）

(4) 最近のインフルエンザ発生の動向について

資料：最近のインフルエンザ発生の動向について

区 (事務局より資料について説明)

(5) 医療資器材の備蓄状況

資料：新型インフルエンザ対策医療資器材備蓄状況

区 (事務局より資料について説明)

(6) その他

区 来年度は医療関係者向けの研修会を開催したいと考えている。テーマ等、ご意見があれば事務局に知らせてほしい。

東京都感染症情報センターのホームページに「医療機関の皆様へ」というページが開設されたので、是非ご覧いただきたい。

区 本年3月に「豊島区新型インフルエンザ等対策推進協議会」を開催する。追って事務局より日程調整のメールを送らせていただく。

閉会のあいさつ

※ 審議経過の記載が2頁以上にわたる場合は、右肩にNo.を付す。

提出された資料等	<ul style="list-style-type: none">・ 陰圧テント立ち上げ訓練実施報告・ 新型インフルエンザ等対策行動計画の確認・ 新型インフルエンザ等情報シート・ インフルエンザに関するサーベイランス・ 平成 30 年度第 1 回東京都感染症地域医療体制ブロック協議会 （区西部・区西北部ブロック）資料〔※非公開〕・ 最近のインフルエンザ発生の動向について
----------	--